



## 2022年3月期 第3四半期決算短信(日本基準)(連結)

2022年2月4日

上場会社名 安田倉庫株式会社  
 コード番号 9324 URL <https://www.yasuda-soko.co.jp>

上場取引所 東

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 藤井 信行

問合せ先責任者 (役職名) 経理部長 (氏名) 荒川 昌幸

TEL 03-3452-7311

四半期報告書提出予定日 2022年2月14日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2022年3月期第3四半期の連結業績(2021年4月1日～2021年12月31日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	営業収益		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2022年3月期第3四半期	38,410	9.5	2,199	5.3	2,888	2.5	1,947	16.0
2021年3月期第3四半期	35,089	1.1	2,321	12.4	2,817	9.8	1,678	19.2

(注) 包括利益 2022年3月期第3四半期 950百万円 ( %) 2021年3月期第3四半期 3,385百万円 ( 55.5%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2022年3月期第3四半期	67.26	
2021年3月期第3四半期	57.96	

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2022年3月期第3四半期	148,764	74,508	49.9
2021年3月期	147,101	76,235	51.6

(参考) 自己資本 2022年3月期第3四半期 74,184百万円 2021年3月期 75,943百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2021年3月期		9.50		14.50	24.00
2022年3月期		12.00			
2022年3月期(予想)				12.00	24.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 2022年3月期の連結業績予想(2021年4月1日～2022年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	営業収益		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	51,500	7.9	2,900	11.8	4,000	8.3	2,600	6.9	89.78

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

## 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- |                    |     |
|--------------------|-----|
| 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 | : 有 |
| 以外の会計方針の変更         | : 無 |
| 会計上の見積りの変更         | : 無 |
| 修正再表示              | : 無 |

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2022年3月期3Q	30,360,000 株	2021年3月期	30,360,000 株
期末自己株式数	2022年3月期3Q	1,401,282 株	2021年3月期	1,401,212 株
期中平均株式数(四半期累計)	2022年3月期3Q	28,958,741 株	2021年3月期3Q	28,958,802 株

当社は、2021年3月期第2四半期連結会計期間より株式報酬制度「株式給付信託(BBT)」を導入しており、当該信託が保有する当社株式(期末自己株式数145,800株、期中平均株式数145,800株)を期末自己株式数及び期中平均株式数の算定上控除する自己株式に含めております。

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

### 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料P. 3「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 .....	4
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間 .....	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間 .....	8
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書 .....	9
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	10
(継続企業の前提に関する注記) .....	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	10
(会計方針の変更) .....	10
(セグメント情報等) .....	11

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### （1）経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、企業収益や個人消費に持ち直しの動きがみられ、移動や外出など新型コロナウイルス感染症による制限も徐々に緩和されるなど回復の兆しもみられた中で、新たな変異株の発生や感染再拡大の懸念により、依然として先行きが不透明な状況が継続しています。

こうした経済情勢にあって、当社グループを取り巻く事業環境は、国内貨物は入出庫・保管残高ともに伸び悩みがみられ、輸出入貨物は持ち直しの動きに足踏みがみられるなど予断を許さない状況であり、また、不動産業界では都市部におけるオフィスビルの空室率上昇が続いており、引き続き厳しい状況で推移しました。

このような状況のもと、当社グループは、2030年のあるべき姿としての「長期ビジョン2030」と、長期ビジョンを実現するための計画として中期経営計画「YASDA Next 100」を策定し、事業体制の構築と更なる成長を目指しております。その一環として、物流事業においては、付加価値の高いロジスティクス・サービスの提供による取引の拡大や物流施設の増強など事業基盤の強化を図り、不動産事業においては、既存施設の適切なメンテナンスと機能向上の推進による稼働率の維持・向上に努め、事業拡大を推進してきました。

当第3四半期連結累計期間における当社グループの業績は、物流事業・不動産事業とも増収となり、営業収益は、前年同期比3,321百万円増（9.5%増）の38,410百万円となりました。営業利益では、物流施設の増設に伴う各種営業原価や販管費の増加などにより、前年同期比121百万円減（5.3%減）の2,199百万円、経常利益は、受取配当金の増加や前期に社債発行費用等を計上したことにより、前年同期比71百万円増（2.5%増）の2,888百万円、親会社株主に帰属する四半期純利益は、前年同期比269百万円増（16.0%増）の1,947百万円となりました。

セグメントの業績は、次のとおりです。

物流事業では、前事業年度に新設した物流施設の稼働や海上運賃の高騰や航空輸送の増加等により倉庫保管料、作業料、陸運料及び国際貨物取扱料が増加し、営業収益は前年同期比3,049百万円増（10.0%増）の33,684百万円、セグメント利益は前年同期比157百万円増（7.1%増）の2,388百万円となりました。

不動産事業では、施工工事の増加や既存施設の稼働率維持により営業収益は前年同期比243百万円増（5.0%増）の5,109百万円、セグメント利益は前年同期比22百万円増（1.4%増）の1,628百万円となりました。

### （2）財政状態に関する説明

#### ①資産、負債及び純資産の状況

当第3四半期連結会計期間末の総資産は、主に倉庫用地（東京都大田区）の取得に伴う有形固定資産の増加により、前連結会計年度末に比べ1,662百万円増の148,764百万円となりました。

負債については、主に短期借入金の増加により、前連結会計年度末に比べ3,389百万円増の74,255百万円となりました。

純資産については、その他有価証券評価差額金の減少により、前連結会計年度末に比べ1,727百万円減の74,508百万円となりました。以上の結果により自己資本比率は、前連結会計年度末に比べ1.8ポイント減の49.9%となりました。

#### ②キャッシュ・フローの状況

当第3四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前連結会計年度末に比べ902百万円減の7,778百万円となりました。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

当第3四半期連結累計期間の営業活動によるキャッシュ・フローは、法人税等の支払や棚卸資産の増加による減少もありましたが、主に税金等調整前四半期純利益や減価償却費の資金留保による増加により2,155百万円増（前年同期は2,786百万円増）となりました。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

当第3四半期連結累計期間の投資活動によるキャッシュ・フローは、主に固定資産や子会社株式の取得による支出により6,490百万円減（前年同期は8,178百万円減）となりました。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

当第3四半期連結累計期間の財務活動によるキャッシュ・フローは、主に借入金の増加により3,322百万円増（前年同期は7,839百万円増）となりました。

（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2022年3月期の連結業績予想につきましては、2021年5月7日に発表いたしました通期の連結業績予想に変更はありません。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2021年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	8,702	7,810
受取手形及び営業未収金	7,178	8,325
商品	1,675	3,212
その他	1,265	1,019
貸倒引当金	△2	△2
流動資産合計	18,819	20,364
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	36,401	36,193
機械装置及び運搬具（純額）	1,924	2,236
工具、器具及び備品（純額）	808	755
土地	32,223	36,966
建設仮勘定	569	143
有形固定資産合計	71,927	76,294
無形固定資産		
のれん	854	769
借地権	1,016	1,016
その他	1,706	1,760
無形固定資産合計	3,577	3,546
投資その他の資産		
投資有価証券	50,260	45,798
繰延税金資産	430	544
その他	2,109	2,234
貸倒引当金	△22	△18
投資その他の資産合計	52,778	48,558
固定資産合計	128,282	128,399
資産合計	147,101	148,764

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2021年12月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
営業未払金	3,560	3,752
短期借入金	4,300	10,120
1年内返済予定の長期借入金	3,321	3,108
1年内償還予定の社債	62	62
未払法人税等	664	231
未払費用	1,331	1,130
その他	1,863	1,921
流動負債合計	15,104	20,325
固定負債		
社債	10,425	10,369
長期借入金	25,256	24,053
繰延税金負債	13,966	12,672
退職給付に係る負債	1,862	1,910
長期預り敷金保証金	3,939	3,934
その他	311	990
固定負債合計	55,761	53,930
負債合計	70,865	74,255
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,602	3,602
資本剰余金	2,814	2,814
利益剰余金	37,989	39,165
自己株式	△1,180	△1,180
株主資本合計	43,225	44,402
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	32,691	29,579
為替換算調整勘定	△361	△164
退職給付に係る調整累計額	387	367
その他の包括利益累計額合計	32,717	29,782
非支配株主持分	292	324
純資産合計	76,235	74,508
負債純資産合計	147,101	148,764

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
 (四半期連結損益計算書)  
 (第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)
営業収益		
保管料	5,753	6,121
倉庫作業料	5,707	6,252
陸運料	11,086	12,335
国際貨物取扱料	4,734	5,556
物流賃貸料	1,253	1,192
不動産賃貸料	3,399	3,334
その他	3,154	3,617
営業収益合計	35,089	38,410
営業原価		
作業費	13,707	15,811
人件費	7,129	7,478
賃借料	2,045	2,408
租税公課	759	809
減価償却費	2,205	2,341
その他	4,617	4,758
営業原価合計	30,465	33,607
営業総利益	4,623	4,802
販売費及び一般管理費		
報酬及び給料手当	1,014	1,030
福利厚生費	176	180
退職給付費用	31	24
減価償却費	102	133
支払手数料	319	347
租税公課	148	123
その他	508	762
販売費及び一般管理費合計	2,302	2,603
営業利益	2,321	2,199
営業外収益		
受取利息	3	8
受取配当金	759	839
雑収入	75	105
営業外収益合計	839	953
営業外費用		
支払利息	253	262
社債発行費	61	-
雑支出	27	2
営業外費用合計	342	264
経常利益	2,817	2,888



（単位：百万円）

	前第3四半期連結累計期間 （自 2020年4月1日 至 2020年12月31日）	当第3四半期連結累計期間 （自 2021年4月1日 至 2021年12月31日）
<b>特別利益</b>		
固定資産売却益	6	2
負ののれん発生益	-	85
特別利益合計	6	88
<b>特別損失</b>		
固定資産売却損	1	2
固定資産廃棄損	167	85
投資有価証券評価損	95	26
特別損失合計	265	113
税金等調整前四半期純利益	2,558	2,864
法人税、住民税及び事業税	730	752
法人税等調整額	129	135
法人税等合計	859	888
四半期純利益	1,699	1,975
非支配株主に帰属する四半期純利益	20	27
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,678	1,947

(四半期連結包括利益計算書)  
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)
四半期純利益	1,699	1,975
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	1,710	△3,112
為替換算調整勘定	△37	206
退職給付に係る調整額	13	△19
その他の包括利益合計	1,686	△2,925
四半期包括利益	3,385	△950
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	3,370	△987
非支配株主に係る四半期包括利益	14	37

## (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	2,558	2,864
減価償却費	2,308	2,475
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△0	△4
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	17	△59
受取利息及び受取配当金	△763	△848
支払利息	253	262
固定資産売却損益 (△は益)	△4	△0
固定資産廃棄損	167	85
売上債権の増減額 (△は増加)	△703	△556
棚卸資産の増減額 (△は増加)	△1,125	△1,536
仕入債務の増減額 (△は減少)	599	△104
預り敷金及び保証金の増減額 (△は減少)	11	△24
その他	184	217
小計	3,505	2,770
利息及び配当金の受取額	765	847
利息の支払額	△249	△264
法人税等の支払額	△1,234	△1,197
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,786	2,155
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の預入による支出	△2	△10
定期預金の払戻による収入	-	1
有形固定資産の取得による支出	△7,900	△5,482
有形固定資産の売却による収入	17	8
無形固定資産の取得による支出	△203	△311
投資有価証券の取得による支出	△1	△1
投資有価証券の売却による収入	22	0
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	-	△625
その他	△110	△68
投資活動によるキャッシュ・フロー	△8,178	△6,490
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入れによる収入	5,000	5,850
短期借入金の返済による支出	△5,000	△150
長期借入れによる収入	1,530	1,289
長期借入金の返済による支出	△2,858	△2,825
社債の発行による収入	9,938	-
社債の償還による支出	△55	△55
自己株式の売却による収入	131	-
自己株式の取得による支出	△131	△0
連結の範囲の変更を伴わない子会社株式の取得による支出	△2	-
配当金の支払額	△694	△764
その他	△17	△21
財務活動によるキャッシュ・フロー	7,839	3,322
現金及び現金同等物に係る換算差額	△35	110
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	2,411	△902
現金及び現金同等物の期首残高	7,829	8,680
現金及び現金同等物の四半期末残高	10,240	7,778

（4）四半期連結財務諸表に関する注記事項

（継続企業の前提に関する注記）

該当事項はありません。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）

該当事項はありません。

（会計方針の変更）

（収益認識に関する会計基準等の適用）

「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。）等を、第1四半期連結会計期間の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することとしております。

収益認識会計基準等の適用による主な変更点は以下のとおりであります。

- （1）物流事業における国際貨物取扱業に係る一部の収益について、従来は、顧客から受け取る対価の総額を売上として認識しておりましたが、顧客へのサービスの提供における当社グループの役割が代理人に該当する取引については、顧客から受け取る額からサービスの仕入れ先に支払う額を控除した純額で収益を認識する方法に変更しております。
- （2）物流事業における国際貨物取扱業に係る収益について、主に契約上の条件が完了した時点で収益を認識しておりましたが、一定の期間にわたり履行義務を充足する取引については、履行義務の充足に係る進捗度に応じて収益を認識する方法に変更しております。

収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っており、第1四半期連結会計期間の期首より前に新たな会計方針を遡及適用した場合の累積的影響額を、第1四半期連結会計期間の期首の利益剰余金に加減し、当該期首残高から新たな会計方針を適用しておりますが、当該期首残高に与える影響はありません。

この結果、当第3四半期連結累計期間の営業収益が584百万円、営業原価が595百万円それぞれ減少し、営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益がそれぞれ11百万円増加しております。

なお、「四半期財務諸表に関する会計基準」（企業会計基準第12号 2020年3月31日）第28-15項に定める経過的な取扱いに従って、前第3四半期連結累計期間に係る顧客との契約から生じる収益を分解した情報を記載しておりません。

（時価の算定に関する会計基準等の適用）

「時価の算定に関する会計基準」（企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。）等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準第19号及び「金融商品に関する会計基準」（企業会計基準第10号 2019年7月4日）第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することにいたしました。これによる四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

(セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間（自2020年4月1日 至2020年12月31日）

1. 報告セグメントごとの営業収益及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	物流事業	不動産事業	計		
営業収益					
外部顧客への営業収益	30,617	4,472	35,089	-	35,089
セグメント間の内部 営業収益又は振替高	17	393	410	△410	-
計	30,634	4,865	35,500	△410	35,089
セグメント利益	2,230	1,605	3,836	△1,514	2,321

(注) 1. セグメント利益の調整額△1,514百万円には、セグメント間取引消去△13百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△1,501百万円が含まれております。全社費用は、親会社の総務部門等、管理部門に係る費用であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

## II 当第3四半期連結累計期間（自2021年4月1日 至2021年12月31日）

## 1. 報告セグメントごとの営業収益及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	物流事業	不動産事業	計		
営業収益					
外部顧客への営業収益	33,672	4,738	38,410	-	38,410
セグメント間の内部 営業収益又は振替高	12	371	383	△383	-
計	33,684	5,109	38,793	△383	38,410
セグメント利益	2,388	1,628	4,016	△1,816	2,199

- (注) 1. セグメント利益の調整額△1,816百万円には、セグメント間取引消去△23百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△1,793百万円が含まれております。全社費用は、親会社の総務部門等、管理部門に係る費用であります。
2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。
3. 会計方針の変更に記載のとおり、第1四半期連結会計期間の期首から「収益認識基準に関する会計基準」（企業会計基準第29号 2020年3月31日）等を適用し、収益認識に関する会計処理を変更したため、事業セグメントの利益又は損失の測定方法を同様に変更しています。
- この結果、当第3四半期連結会計期間の物流事業における営業収益が584百万円減少し、セグメント利益が11百万円増加しています。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(重要な負ののれん発生益)

「物流事業」セグメントにおいて、南信貨物自動車株式会社の株式取得による子会社化に伴い、負ののれんが発生しております。当該事象による負ののれん発生益の計上額は、当第3四半期連結累計期間においては85百万円であります。なお、負ののれんの金額は、取得原価の配分が完了していないため、暫定的に算定された金額であります。また、当該負ののれん発生益は特別利益に含まれるため、上記セグメント利益には含まれておりません。